POWER UP

INTERVIEW

藤田金屬株式会社　代表取締役社長　今井（いまい） 幹太（もとひろ）氏

“鉄の総合商社”として地域のものづくり、まちづくりを支え続ける



PROFILE

1991年生まれ、新潟市出身。青山学院大学経済学部を卒業後、伊藤忠丸紅鉄鋼に入社。鉄鋼製品の輸出販売業務などに携わる。2018年 藤田金屬に入社。同年10月、父である5代目社長の逝去に伴い、代表取締役社長に就任。新潟商工会議所では議員を務める。

●その他、主な所属団体
全国コイルセンター工業組合 理事
新潟県鉄鋼販売業連合会 理事及び下越支部長
柳都振興 代表取締役社長
ふるまち樽拳 取締役

創業134年の藤田金屬は、鉄鋼製品の流通から加工、レンタル、各種施工まで手掛ける「鉄の総合商社」。あらゆる業界のニーズに応えながらものづくりを支えるとともに、地域の活性化に繋がる活動にも力を入れる同社の今井社長に、お話を伺いました。



藤田金屬株式会社
〒950-8588
新潟市中央区八千代1丁目7番20号
TEL:025-245-6666
https://www.fujita-kz.com

“動く変る”をキーワードに、時代に合わせて変化を続けながら、お客様が求めているものをしっかりと提供していきたいと思います



薄く引き伸ばした巨大な鉄をロール状にした“コイル”を鉄鋼メーカーから仕入れ、顧客の要望に合わせて二次・三次加工まで対応。国内で類を見ないほど多品種の鋼材を取扱っている。

各種鋼材の販売から加工まで対応。幅広い業界との取引も強みに

藤田金屬は1892年（明治25年）、初代が燕市でヤスリの製造業を起こしたのが始まり。昭和20年には卸問屋として鉄の流通販売事業に転換し、その後は顧客のニーズに合わせてさまざまな鋼材の加工まで行う企業として実績を積み重ねてきた。「独立系の会社でこれだけ多品種の鉄鋼の加工を手掛けているのは、全国でも当社だけだと思います。また、取引先が常時2000社程あり、数えきれない業界の方々と商売をさせていただいているので、時代によってどこかの業界が落ち込んだとしても、安定した基盤で事業運営が続けられることも強みです」と今井社長は語る。

歴史を支えてきた“変化と挑戦”。古町の活性化を通して地域に貢献

134年という歴史を繋いでこられたのは、「製造から流通へと業態転換したように、その時代に合わせてマーケットのニーズを見極め、会社の形を変えてきたことが大きいと思います。また、先代の父が“動く変る”というスローガンを打ち出したのですが、鉄の流通は需要の減速速度が遅いため、変化に足踏みしている会社が多い中、当社は“変わらないことが衰退である”と捉え、常にチャレンジすることを心がけています。それも長続きしている秘訣だと思います」と語る。

同社は地域貢献活動にも力を入れており、2023年には新潟市古町地区の持続可能なまちづくりを推進する「ふるまち樽拳（※）」に出資。古町に残る歴史的建造物を活かした宿泊施設とバーの運営を行っている。「支えてくださる地域の方々に事業を通して恩返しするのはもちろん、より目に見える形で貢献したい。その目的を達成するための一環として、私が生まれ育った古町の活性化から始めたいと思いました」。

“働いてよかった、成長できる”と社員に思ってもらえる会社に

新潟商工会議所で議員を務める今井社長は、「いろいろな会社を巻き込んで地域貢献活動を行うには、まだまだ力が足りません。会員を多く持つ商工会議所さんが旗を振ってくださることで、賛同していただける方々が増えてくると思うので、そうした牽引力に期待しています」と話す。

今後は社員への投資を今まで以上に行っていきたいという今井社長。「まずは社員を幸せにしたい。給与面の改善をはじめ人材育成などにも力を入れ、“この会社で働いてよかった、成長できる”と社員に思ってもらえるようにしたいですし、そう思う社員が増えることでお客様、地域の方々へと幸せが伝播していければと思っています」。これからも地域とともに歩みながら、鉄の総合商社としてチャレンジと進化を続けていく。

※ナミックス㈱、㈱廣瀬、㈱Essa、藤田金屬㈱の4社で設立した、まちづくり会社





今井社長の祖母がかつて営んでいた待合茶屋「美や古（みこ）」を改修した宿泊施設を運営。花街として今も息づく古町エリアの活性化に取り組んでいる。